



でああなたの手元に届くwebマガジン

おばこ稲作情報



2021年8月
No. 1 4
JA秋田おばこ

出穂早まる 稲体冷やす水管理を

これまでの好天と高温によって、例年よりも早い出穂期を迎えています。おばこ管内の出穂期は7月31日と見られ、平年よりも3日早くなりました。今後とも平年よりも気温は高いと予報されていることから、引き続き、高温登熟を防ぐ水管理をお願いします。

出穂が早まったことから、斑点米カメムシ類の防除適期と刈り取り開始が早まります。刈り取り開始の目安となる出穂後積算気温を確認して刈り取り適期を逃さないようにしてください。高温多照の場合、適期が前進するので、早めに準備を進めてください。

フェーン時は事前に湛水管理を

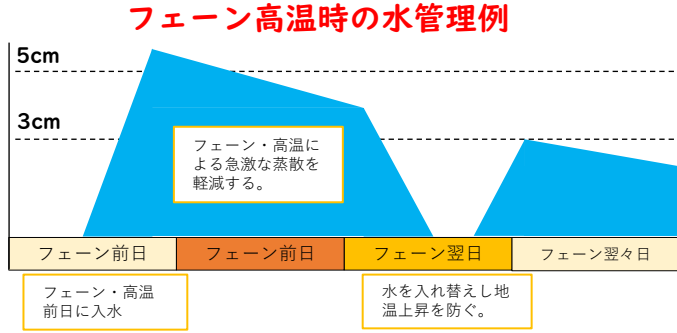
日中の最高気温32度以上の日やフェーン現象により乾燥した風が吹く場合は、根の吸水量より葉の蒸散量が多くなり、葉先枯れや株元の枯れ上がりが進み、登熟不良の原因となります。

また、用水不足の地域では、地域で協力し合い水回しを行ってください。

出穂後積算気温 q50℃到達予想日

| |
|-------------|
| 大曲(標高30m) |
| 9月8日 |
| 角館(標高56m) |
| 9月8日 |
| 田沢湖(標高230m) |
| 9月8日 |

※8/5日現在。 ※大曲、角館は7/31出穂。田沢湖は8/1出穂。8/4までは実測値、8/5以降は平年値を使用。 ※今後の天候で変わりますので最新の情報をJAから入手してください。



フェーン高温時の水管理例

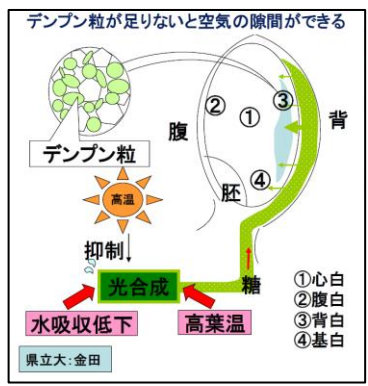
水不足時の対応

溝切り跡を活かして
こまめに走り水を
地温上昇しすぎないように
根を冷やそう



～高温下での影響～

白未熟粒は水分ストレスによって光合成と養分転流がうまくいかず、デンプンの詰まりが悪くなり空気の隙間ができ光が乱反射して白く見えます。白未熟粒は、精米や炊飯時に米が砕け、ベチャベチャになってしまい、食味が落ちてしまいます。心白・腹白は登熟初期～中期の高温、背白・基白は登熟中期～後期の高温による水分ストレスによって発生します。高温下では、白未熟粒のほかに、茎葉の養分が籾への転流に使われず、稲体に消費されてしまうので、米粒が小さくなりやすいです。まずは、土壌水分の維持と稲体を冷やす水管理がポイントです。



LINE公式アカウント
「@ja-obako」で検索
稲作情報発信中!



ガラケーでも！
「メルマガ」も始めました
稲作情報があなたの手元に!

